

足元から見つめる戦争

―大山町同推協日帰り研修―

6月1日に大山町人権・同和教育推進協議会は研修を行いました。

参加者は17名。池原正雄先生（元鳥取大学非常勤講師）を講師に、県中部に残る戦争遺跡を巡るフィールドワークを行いました。

フィールドワークのコース

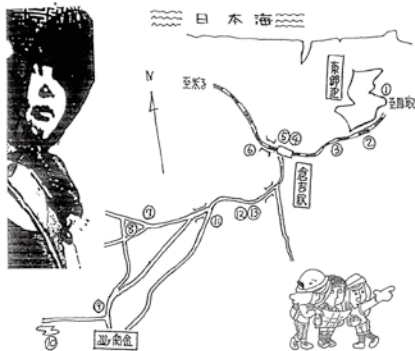
- ① 満蒙開拓義勇軍の碑
- ② 原爆の灯を守る法林寺
- ③ 神鋼機器工業（戦時下兵器工場）
- ④ 上北条地区軍人墓地
- ⑤ 高城飛行場跡
- ⑥ 県立農業経営大学校（修練農場）
- ⑦ 八幡神社（八紘一字の碑）
- ⑧ 橋田邦彦文部大臣顕彰碑
- ⑨ 被爆青ギリ2世
- ⑩ 横山薫範氏（九軍神）墓地（琴浦町上法万）

この中で、原爆の火を灯し続ける法林寺を紹介します。

〔法林寺〕

法林寺は湯梨浜町松崎にある浄土

足元から見つめる戦争のフィールド



真宗のお寺です。この本堂には広島に投下された原爆によって起こった火災の火が灯し続けられています。その経緯を住職からお聞きしました。「長野県松本市の神宮寺に保存されている広島原爆の残り火を『分燈』するために全国行脚している神戸市のボランティア団体『神戸元氣村』の代表、山田和尚さんが平成12年11月24日、鳥取県庁に来られ、先代住職の上杉宣章が分けていただいたものです。この平和の灯は、『こころ』と名付けられ、現在まで灯し続けら



れています。

山田さんは3月に神宮寺で残り火を分けてもらい、自転車と徒歩で約4千キロの『分燈の旅』を続けて来られました。

広島市に原爆が投下された昭和20年8月6日、一人の市民がアメリカに対して『憎しみの火』として残し続けていた種火でしたが、平和を願う人々の手で守られ、平成10年、『原爆忌』を続けていた神宮寺に分燈されていったものです」

池原先生の熱い思いと丁寧な説明を聞き、『戦争を風化させてはならない、二度と戦争を起こしてはならない』と改めて胸に刻みました。

第4回みんなの人権セミナー

「子どもの今が、地域社会を創り出す」 ～子どもの人権より～

- ◆日時 8月3日（土）19時30分～
- ◆講師 北野真由美さん（NPO法人えんばわめんと堺 代表理事）
- ◆場所 人権交流センター
- ◆内容 誰もが生きてきた子ども時代。一人ひとり大切にすると？大切にされるとは？人が尊重される地域づくり、気持ちのつながる関係づくりを子どもの人権から考えます。

- *その他
- ①小学校入学までを対象に託児を設置します。希望される場合は、お子さんのお名前・年齢を添えて、人権推進室に申し込んでください。
- ②手話通訳を希望される場合は、人権推進室に申し込んでください。

◆問い合わせ先

福祉介護課人権推進室（人権交流センター内）

☎0859-54-2286 FAX0859-54-2413